

D2630 郡上長良川ロータリークラブ

よいことのために

手を取りあおう

RI会長メッセージ

2025.7~2026.6 会長：佐藤備子 副会長：大村太郎 幹事：清水英志

第48期クラブメッセージ

「輪と和」 輪を広げよう 和やかに

例会日：毎週水曜日 18:30~ (6-9月 19:00~)
 例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F
 TEL: 0575-82-3822 FAX: 0575-82-5191
 E-mail: gsrc@abelia.ocn.ne.jp
 発行：クラブ会報委員会

第2231回 令和8年5月13日(水)

本日の行事

外来卓話：郡上市図書館館長 羽土 聡様

2025-26 年度 佐藤備子会長
 本日のお客様 郡上市図書館長 羽土 聡様
 幹事報告 清水英志君

* 5月ロータリーレート 1\$160円

* ガバナー事務所より

・ ガバナー月信原稿・出席・動静報告引継ぎについて

・ バギオ便り 拝受

・ ガバナー月信原稿依頼 (会長)

* ガバナーエレクト事務所より

・ ホームページ内に職業分類の検索システムを設営 締切 6/15

* 地区事務所より

・ 奉仕プロジェクト補助金申請決定案内

・ 国際奉仕委員会 アンケート依頼

* 各務原 RC より 親睦ゴルフ大会組合表拝受

第2230例会報告

■会長挨拶

2025-26 年度 佐藤備子会長

皆さん、こんばんは。本日は、午後4時より、次期会長の里恵子さん、次期幹事の遠藤さん、次期青少年委員長長の松森さん、そして白鳥おどり保存会長にもご同席いただき、北高を訪問し、今年のおどりフェスに向けた取り組みについて打ち合わせをしてみました。そして本日は、踊りリーダー部の皆さん6名に例会へお越しいただいております。

皆さんは、2025 年度「全国高校生マイプロジェクトアワード」において、白鳥おどりをテーマに発表し、岐阜県代表として出場、さらに全国大会では高校生特別賞・マイプロジェクト特別賞のダブル受賞という素晴らしい成果を収められました。今年3年生になられ、さらに仲間を増やしながら活動の輪を広げていこうとされています。ロータリーとしても、ぜひ全力で応援し、支えていきたいと思っております。

さて今日は、紹介したい絵本があります。高校生の皆も一緒に聞いてください「幸せのバケツ」というおはなしです。子供向けの絵本ですが、思いやりの大切さを描く話で、何か国語にも訳されている本です。朗読します。

世界中の誰もが持っている、「幸せのバケツ」。見えないけれど、皆が持っている。あなたは「幸せのバケツ」を持っている。家族の皆も。おじいちゃん、おばあちゃん、友達、近所の人、みんなバケツを持っている。皆見えないバケツを運んでいる。バケツがいっぱいになると、とっても幸せな気持ちになれる。でも、バケツが空っぽになると、悲しく、そして寂しくなる。みんな、バケツを幸せでいっぱいになりたい。どうすれば、バケツをいっぱいにするんだらう。あなたがバケツをいっぱいにするには周りの人の協力が必要。周りの人も、自分のバケツをいっぱいにする為にはあなたが必要。ではどうやって、バケツをいっぱいにするんだらう？

誰かに好きな気持ちを伝えたり、親切にしてあげたり、微笑みかけたりした時に、「しあわせのバケツ」はいっぱいになる。これがバケツをいっぱいにする方法。バケツを幸せでいっぱいにする人は、優しい言葉を言えて、よい行いができる人。もしあなたが誰かを特別な気持ちにさせたら、あなたはその人のバケツを幸せでいっぱいにしている。反対に誰かを嫌な気持ちにさせたり、バカにしたり、意地悪なことをしたり、無視することは、バケツを空っぽにする。いじめもバケツを空っぽにする。誰かを傷つけて、その誰かのバケツを空っぽにすれば、自分のバケツも空っぽになってしまう。バケツを空っぽにする人のバケツはだいたい空っぽ。彼らはほかの人のバケツを空っぽにすると自分のバケツがいっぱいになると思っている。でもそんな方法ではバケツはいっぱいにならない。人のバケツを空っぽにしても、絶対自分のバケツはいっぱいにならない。でも、あなたが誰かのバケツを幸せでいっぱいにすると、自分のバケツもいっぱいになるんだよ！人を幸せにすると、自分も幸せになれる

んだよ。練習すれば、バケツをいっぱいにするのがとても上手になるよ。みんなが、目に見えないバケツを

持っていることを忘れないで。そしてバケツをいっぱいにする為に、何が出来るのかを考えてみよう。例えばこんなことができるはず。バスの運転手さんに笑顔で「こんにちは」運転手さんの「幸せのバケツ」が、ほら、もういっぱい。例えば、先生に「ありがとう」と書いたカードを渡してみるのはどう？おじいちゃんに「一緒にいると楽しいね」と言ってみて。バケツを幸せでいっぱいにする方法はたくさんあるよ。「しあわせのバケツ」いっぱいにするのは楽しくて、とても簡単なこと。大人も子供も関係なくて、お金も時間もいらない。そして誰かのバケツを幸せでいっぱいになると、自分のバケツもいっぱいになることを忘れないで。みんながバケツを幸せでいっぱいにしていけば、家も、学校も、町もすべて楽しい場所になるよ。バケツをいっぱいになるとみんなが幸せになれるんだよ。

というお話です。さっそく今日寝る前に考えてみてください。

「自分は誰かのバケツをいっぱいにできたろうか」そんなふうに振り返ってみるのも良いのではないのでしょうか。

しろとり踊りフェスは、まさにこの“幸せのバケツ”を町中いっぱいにするような活動だと感じています。人と人がつながり、笑顔が広がり、地域が元気になる。そんな場を、今年の夏も、皆さんとともに創り上げていきたいと思います。

■マイプロジェクトアワード発表

こんにちは。本日はこのような場にお招きいただき、ありがとうございます。私達は郡上北高校の元祖踊りリーダーズです。今日は今からマイプロジェクトアワードで発表をしたプレゼンをさせていただきます。

私たちの町には、夏になると毎週町内のどこかで踊りが行われ、お盆には3日間連続で夜の8時から朝の4時まで踊り続ける伝統行事があります。そんな白鳥踊りは私達高校生にとって堅苦しい伝統ではなく、夜遅くまで友達と過ごせる青春そのもののような存在です。

私たちの青春である白鳥踊りは、世界最速の盆踊りとも呼ばれています。しかし、同じ地元にあり、日本三大盆踊りにも登録されている郡上踊りと比べると来場者数はわずか1/10となっています。

それに加え、近年少子高齢化や、コロナ禍による影響で以前のような盛り上がりがなくなってしまいました。白鳥踊りに参加する友達が少なくなってしまい、踊りの輪が小さい輪で行われる白鳥踊りに虚しさを感じ、「あれ？白鳥踊りってこんなんだっけ？」という違和感を中学3年生で持ちました。そして当たり前にあった白鳥踊りが、このままでは当たり前ではなくなるかもしれない、そう感じた事が、私たちの活動の出发点でした。そこで、中学生当時の私たちはまず、自分たちにできることは何かを考え、体育祭で踊を踊ったり、全校生徒で踊る日を設けたりしました。

実は、元祖踊りリーダーズという名前の由来は、中学生の頃の私たちが、踊りの輪の中心になって、白鳥踊りを盛り上げる踊りのリーダーが必要だと考え、その初代メンバーが私たちだったからこそ、“元祖”と名付け、元祖踊りリーダーズとなりました。

そして活動目的は、白鳥踊りの楽しさを、全校生徒に感じてもらうことでした。そして、中学校を卒業しても、ここでこの活動を終わらせないという思いで、高校に進学してこの活動を続けました。

活動を進める中で私たちは、ただ踊るだけで、本当に白鳥おどりは盛り上がるのか？という疑問が持ちました。それは、踊り手が減少する中で、このまま同じことばかりをしても、何も変わらないのではないかと思ったからです。

そこで、若者である私たちだからこそ出来るのではないかと考え、ただ踊る側から、企画する側と立ち場を変える必要があると考えました。メンバーと話し合って、若者が主役となる白鳥踊りを作ること、同世代の関心を高めたいという思いで、意見がまとまりました。若者が興味を持ちそうな、フェスと白鳥踊りを掛け合わせることにしました。その結果生まれたのが、地元の方と共同で行った、白鳥踊りフェスの開催です。

私たちは、フェスの開催に向けて3つのことに取り組みました。

1つ目は白鳥踊り保存会との合同練習です。当日に向けて、週に2、3回ほどご指導を受けさせて頂きました。そして現在では、中高生だけで演奏と歌ができるまで成長しました。

2つ目はオドリギと共同し、手ぬぐいを1からデザインしたことです。オドリギは伝統的な盆踊り文化を、新しい衣服として世界に広げようとしている会社です。そこで私たちは使いやすく、いつでも白鳥踊りのことを思い出せる、手ぬぐいを作りました。

世代を超えて多くの人が、輪になって踊れるようにという思いを込め、地元の学生に無料で配布しました。

3つ目の取り組みは、SNSの運用です。高校生が主体となって、Instagramを開設し、ポスター制作や活動

元祖踊りリーダーズ（郡上北高の皆様）



発信を始めました。

若者の興味や関心を発信するためにはどうしたらいいかを思考錯誤しながら工夫しました。そして迎えた白鳥踊りフェス当日、私たちが理想としていたフェスと伝統的な白鳥踊りを組み込むため、下駄につけるキラキラのチャームを配布したり、歌と歌の間にDJのようなMCを挟んだりして、みんなのワクワクを引き出す工夫をたくさん行いました。

そして、この活動は新聞社やテレビ局にも取り上げていただき、白鳥踊りの新たな可能性を広げる結果となりました。また、地元の方からのオファーにより、地区の祭りでも演奏しました。

私たちは、この活動を通して伝統を未来へ繋ぐとは何かを問い直しました。初めはフェスという新しい形に価値があると思っていましたが、保存会の方々と関わる中で、伝統とは長い時間をかけて積み重ねられてきた人の思いや努力の上に成り立っていることに気づきました。

その背景を理解した上でフェスが成り立つと、白鳥踊りは多くの人の支えによって成り立つ地域文化であることが見えてきました。私たちは、友達と多くの人がいる白鳥踊りを楽しく踊れて、保存会の方々は多くの参加者によって伝統を守り続けていくことができる、そんな互いにプラスになるような関係の中で、白鳥踊りは未来へ繋がっていくのだと感じました。

だからこそ私たちは白鳥踊りを盛り上げるだけではなく、人と人が繋がりながら続いていく文化として広げていきたいと考えるようになりました。私たちは白鳥踊りをもっと多くの人に知ってもらい、次の世代やこれまで関わりのなかった人たちも気軽に参加できるような環境を作りたいと考えています。

また、私たちには夢があります。それは白鳥踊りを全国に広めるツアーを行うことです。各地で実際に踊りを体験してもらうことで、その魅力や伝統を守る人の思いを広め、白鳥踊りを未来へ繋げていきたいです。

現在は学校の文化祭で全校生徒と一緒に踊ったり、中学生と交流したりしながら、次の舞台で全国ツアーを行うための仲間を増やす活動を続けています。

また私たちは先日、地域の方と交流する会というものに参加して来ました。

その中で「白鳥踊りをぜひ世界に広めて欲しい、世界3大ダンスにしてよ」という意見をいただきました。自分たちの活動を応援してくださる方がいるんだと感じ、すごく心強く感じました。その一方で地域の皆さんがこのような不安を抱えていることも分かりました。自分たちでも考えてなかったことだし、確かになあ、とすごく納得しました。今後、この課題解決に向けても考えていきたいです。

そして最終的には、白鳥踊りを日本三大盆踊りに並ぶ存在ではなく、新しく日本四大盆踊りにしたいと考えております。

先ほども言った通り、私たちは先日、全国で白鳥踊りを全国に届ける全国高校生マイプロジェクトアワード2025全国サミットに参加して来ました。

そしてマイプロジェクトアワード特別賞と高校生特別賞を受賞することができました。この賞を受賞できたのはロータリーの皆さんが白鳥踊りフェスを共に作り上げてくださったおかげです。

本当にありがとうございました。このプロジェクトをきっかけに、全国に白鳥踊りの楽しさを広げ、白鳥踊りをもっと有名にしたいです。ご清聴ありがとうございました。

■ニコBOX

ニコBOX委員会 遠藤正史君

佐藤備子君 踊りリーダーズの子たちの意気込み、嬉しく思いました。

大村太郎君 北高生の皆様、今日ご苦勞様です。私達ロータリークラブはいつも北高を応援しています。

寺田澄男君 郡上北高生徒の皆さん、ようこそ。先般のアワードW受章おめでとうございます。これからも伝統芸能のために頑張ってください。

畑中知昭君 北高の皆さん、今日は来てくれてありがとうございます。

美谷添里恵子君 今日はマイプロジェクト発表が楽しみです。若いエネルギーをもらいましょう。

山口里美君 北高生の皆様、ようこそロータリーへ。報告楽しみに来ました。

遠藤正史君 高校生の皆さん、元気に発表して下さい。

杉山賢君 高校生の皆さん、マイプロジェクト入賞おめでとうございます、7月の白鳥おどりフェスも盛り上がって行きましょう。

有井弥生君 郡上北高校の皆様、おめでとうございます。お話し楽しみにしています。

藤代昇君 郡上北高生の皆様、ご苦勞様です。頑張って活動を続けてください。

同文 和田良一君、小島正則君、松森正和君、清水英志君、和田智博君

■行事予定

5月20日 次年度活動計画①

5月27日 次年度活動計画②

■出席報告

出席委員会 和田良一君

回数	会員数	出席者	休会者	補正	出席率
2230回	30名	17名	1名	2名	65.52%
2231回	30名	18名	1名	1名	65.52%